

新専門医制度 内科領域

甲南医療センター

内科専門研修プログラム【2025】



目次

内科専門研修プログラム	・・・・P2
専門研修施設群	・・・・P10
専門研修プログラム管理委員会	・・・P64
専攻医研修マニュアル	・・・・P65
指導医マニュアル	・・・・P70
各年次到達目標	・・・・P72
週間スケジュール	・・・・P73

(2024 年 10 月 25 日改訂)

甲南医療センター内科専門研修プログラム

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

- 1) 本プログラムでは、神戸市東灘区の地域の基幹病院である甲南医療センターを基幹施設として、兵庫県神戸市東灘区医療圏・近隣医療圏にある連携施設と協力して内科専門研修を行います。甲南医療センターは昭和 9 年に当地に開院して以来、病院の創立者である平生鈇三郎の思いである「人類愛の精神に基づき、悩める病人のための病院たらん」を基本理念として、質の高い医療を提供できる病院として在り続けたいと願っています。また、東灘区医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練し、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科の Generality を獲得する場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して、複数のコース別に研修をおこなって内科専門医の育成を行います。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）に豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して要求される基礎的な診療能力を指します。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。多くの患者に対する診療を通して、これらを受得するよう努めます。

使命【整備基準 2】

- 1) 内科専門医として、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

- 1) 本プログラムは、神戸市東灘区の地域の基幹病院である甲南医療センターを基幹施設として、兵庫県神戸市東灘区医療圏、近隣医療圏をプログラムとして守備範囲とし、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間です。
- 2) 本研修プログラムでは、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である甲南医療センターでの 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会 J-OSLER に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形式的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます。
- 4) 連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、原則として 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 5) 専攻医 3 年修了時で、「研修手帳」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、日本内科学会 J-OSLER に登録できる体制とします。そして可能な限り、「研修手帳」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします。

専門研修後の成果【整備基準 3】

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。
- 2) 内科系救急医療の専門医：内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合内科医療を実践します。
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist：病院での内科系の Subspecialty を受け持つ中で、総合内科（Generalist）の視点から、内科系 Subspecialist として診療を実践します。

本プログラムでは甲南医療センターを基幹病院として、多くの連携施設と病院群を形成しています。複数の施設での経験を積むことにより、様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています。

2.内科専門医研修はどのように行われるのか[整備基準：13～16、30]

- 1) 研修段階の定義：内科専門医は2年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（専攻医研修）3年間の研修で育成されます。
- 2) 専門研修の期間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める「内科専門医研修カリキュラム」（別添）にもとづいて内科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、基本科目修了の終わりに達成度を評価します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
- 3) 臨床現場での学習：日本内科学会では内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています。日本内科学会 J-OSLER への登録と指導医の評価と承認とによって目標達成までの段階を uptodate に明示することとします。各年次の到達目標は以下の基準を目安とします。

○専門研修1年

- ・ 症例：カリキュラムに定める70疾患群のうち、20疾患群以上を経験し、日本内科学会 J-OSLER に登録することを目標とします。
- ・ 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。
- ・ 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修2年

- ・ 疾患：カリキュラムに定める70疾患群のうち、通算で45疾患群以上を（できるだけ均等に）経験し、内科学会 J-OSLER に登録することを目標とします。
- ・ 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。
- ・ 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修3年

- ・ 疾患：主担当医として、カリキュラムに定める全70疾患群、計200症例の経験を目標とします。但し、修了要件はカリキュラムに定める56疾患群、そして160症例以上（外来症例は1割まで含むことができる）とします。この経験症例内容を内科学会 J-OSLER へ登録します。既に登録を終えた病歴要約は、内科学会 J-OSLER による査読を受けます。
- ・ 技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができるようにします。
- ・ 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修2年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナルリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

<内科研修プログラムの週間スケジュール：糖尿病内科の例>

各曜日 午前 主治医団チームカンファレンス、病棟ラウンド
月曜日 午前 救急外来
午後 内科合同カンファレンス、糖尿病支援入院講義
火曜日 午前 外来
午後 糖尿病患者カンファレンス
水曜日 午後 NST 回診
木曜日 午前 外来
午後 糖尿病病棟カンファレンス
糖尿病センター チームカンファレンス (第2木曜)
金曜日 午前、午後 超音波検査(腹部、心臓、甲状腺、頸動脈)
PWV、ABI、神経伝導速度など
午後 指導医カルテ診 (weekly discussion)
16時～17時15分 J-OSLER time
糖尿病支援入院(1週間パス)、外来(2回/週)

なお、内科学会 J-OSLER の登録内容と適切な経験と知識の修得状況は指導医によって承認される必要があります。

【専門研修 1-3 年を通じて行う現場での経験】

- ①専攻医 2 年目以降から初診を含む外来(1 回/週以上)を通算で 6 ヶ月以上行います。
- ②当直を経験します。

4) 臨床現場を離れた学習

①内科領域のトピックス、②最新のエビデンスや病態・治療法について専攻医対象のセミナーが定期開催されており、それを聴講し、学習します。内科系学会、JMECC(内科救急講習会)等においても学習します。

5) 自己学習

研修カリキュラムにある疾患について、内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します。個人の経験に応じて適宜 DVD の視聴ができるよう図書室に設備を準備します。また、日本内科学会雑誌の MCQ やセルフトレーニング問題を解き、内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。週に 1 回、指導医との Weekly summary discussion を行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、J-OSLER に記載します。

6) Subspecialty 研修

後述する”各科重点コース”において、それぞれの専門医像に応じた研修を準備しています。Subspecialty 研修は 3 年間の内科研修期間の、いずれかの年度で最長 1 年間について内科研修の中で重点的に行います。大学院進学を検討する場合につきましても、こちらのコースを参考に後述の項目 8 (P.8、9)を参照してください。

3.専門医の到達目標項目 2-3)を参照[整備基準：4, 5, 8～11]

- 1) 3 年間の専攻医研修期間で、以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします。

- ①70 に分類された各カテゴリーのうち、最低 56 のカテゴリーから 1 例を経験すること。
- ②内科学会 J-OSLER (定められた 200 件のうち、最低 160 例)を登録しそれを指導医が確認・評価すること。
- ③登録された症例のうち、29 症例を病歴要約として内科専門医制度委員会へ提出し、査読委員から合格の判定をもらうこと。
- ④技能・態度：内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得すること。

なお、習得すべき疾患、技能、態度については多岐にわたるため、研修手帳を参照してください。

2) 専門知識について

内科研修カリキュラムは総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、腫瘍、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急の 13 領域から構成されています。甲南医療センターには 9 つの内科系診療科（総合内科、内分泌・代謝内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、腫瘍・血液内科、呼吸器内科、緩和ケア内科）が複数領域を担当しています。また、救急疾患は救急科および各診療科によって管理されており、甲南医療センターにおいては内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて、専門知識の習得を行います。さらに連携施設の神戸大学医学部附属病院、加古川中央市民病院、神鋼記念病院、神戸赤十字病院、北播磨総合医療センター、兵庫県立丹波医療センター、兵庫県立淡路医療センター、三田市民病院、明石医療センター、兵庫県立はりま姫路総合医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、神戸市立西神戸医療センター、千船病院、大阪市立総合医療センター、淀川キリスト教病院、高槻病院、大阪府済生会中津病院、日本生命病院、兵庫県立加古川医療センター、長崎医療センター、特別連携施設の六甲アイランド甲南病院を加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。患者背景の多様性に対応するため、地域での研修を通じて幅広い活動を推奨しています。

4.各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得[整備基準：13]

1) 朝カンファレンス・チーム回診

朝、患者申し送りを行い、チーム回診を行って指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。

2) 病棟回診：受持患者について指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症例についても見識を深めます。

3) 症例検討会：診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑などを行います。

4) 診療手技セミナー（不定期）

例：中心静脈挿入法、救急蘇生講習等、診療スキルの実践的なトレーニングを行います。

5) C P C：死亡・剖検例、難病・稀少症例についての病理診断を検討します。

6) 関連診療科との合同カンファレンス：関連診療科と合同で、患者の治療方針について検討し、内科専門医のプロフェッショナリズムについても学びます。

例：内科、外科、病理による消化器カンファレンス

7) Weekly summary discussion：週に 1 回、指導医と行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修管理委員会で研修状況を報告、検討します。

- 8) 学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します。後輩を指導することは自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけています。

5.学問的姿勢[整備基準：6、30]

患者から学ぶという姿勢を基本とし、科学的な根拠に基づいた診断、治療を行います。(evidence based medicine の精神) 最新の知識、技能を常にアップデートし、生涯を通して学び続ける習慣を作ります。また、日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため、症例報告あるいは研究発表を奨励します。論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり、内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価されます。

6.医師に必要な倫理性、社会性[整備基準：7]

医師の日々の活動や役割に関わってくる基本となる能力、資質、態度を患者への診療を通して医療現場から学びます。

甲南医療センターにおいて症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、連携施設において地域住民に密着し、病病連携や病診連携を依頼する立場を経験することにより、地域医療を実施します。そのため複数施設での研修を行うことが望ましく、全てのコースにおいてその経験を積みます。詳細は項目 8 (P.13、14、15) を参照してください。

地域医療を経験するため、全てのプログラムにおいて連携施設（神戸大学医学部付属病院、加古川中央市民病院、神鋼記念病院、神戸赤十字病院、北播磨総合医療センター、兵庫県立丹波医療センター、兵庫県立淡路医療センター、三田市民病院、明石医療センター、兵庫県立はりま姫路総合医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、神戸市立西神戸医療センター、千船病院、大阪市立総合医療センター、淀川キリスト教病院、高槻病院、大阪府済生会中津病院、日本生命病院、兵庫県立加古川医療センター、長崎医療センター）、特別連携施設（六甲アイランド甲南病院）での研修期間を設けています。専攻医は連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。入院症例だけでなく外来での基本となる能力、知識、スキル、行動の組み合わせを指します。なお、連携病院へのローテーションを行うことで、地域においては、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持に貢献します。

基幹施設、連携施設を問わず、患者への診療を通して、医療現場から学ぶ姿勢の重要性を知ることができます。インフォームド・コンセントを取得する際には上級医に同伴し、接遇態度、患者への説明、予備知識の重要性などについて学習します。医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療、カルテ記載、病状説明など）を果たし、リーダーシップをとれる能力を獲得できるようにします。

医療安全と院内感染症対策を十分に理解するため、年に 2 回以上の医療安全講習会、感染対策講習会に出席します。出席回数は常時登録され、年度末近くになると受講履歴が個人にフィードバックされ、受講を促されます。

7.研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

[整備基準：25、26、28、29]

甲南医療センター（基幹施設）において症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、地域医療を実施するため、複数施設での研修を行うことが望ましく、全てのコースにおいてその経験を求めます。（詳細は項目 10 と 11 を参照のこと）

地域医療を経験するため、全てのプログラムにおいて連携施設（神戸大学医学部付属病院、加古川中央市民病院、神鋼記念病院、神戸赤十字病院、北播磨総合医療センター、兵庫県立丹波医療センター、兵庫県立淡路医療センター、三田市民病院、明石医療センター、兵庫県立はりま姫路総合医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、神戸市立西神戸医療センター、千船病院、大阪市立総合医療センター、淀川キリスト教病院、高槻病院、大阪府済生会中津病院、日本生命病院、兵庫県立加古川医療センター、長崎医療センター）、特別連携施設（六甲アイランド甲南病院）での研修期間を設けています。連携病院へのローテーションを行うことで、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持にも貢献できます。連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。入院症例だけでなく外来での経験を積み、施設内で開催されるセミナーへ参加します。

地域における指導の質および評価の正確さを担保するため、常にメールなどを通じて研修センターと連絡ができる環境を整備し、月に 1 回程度基幹病院の指導医と連絡を取り、プログラムの進捗状況を確認、報告します。

8. 年次毎の研修計画[整備基準：16、25、31]

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 2 つのコース、①内科基本コース、②各科重点コースを準備しています。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。

Subspecialty が未決定、または高度な総合内科専門医を目指す場合は内科基本コースを選択します。専攻医は各内科学部門ではなく、総合内科に所属し、3 年間で各内科や内科臨床に関連ある救急部門などを 2 ヶ月毎にローテートします。将来の Subspecialty が決定している専攻医は各科重点コースを選択し、各科を原則として 2 ヶ月毎、研修進捗状況によっては 1 ヶ月～3 ヶ月毎にローテーションします。いずれのコースを選択しても遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に工夫されており、専攻医は卒後 5～6 年で内科専門医、その後 Subspecialty 領域の専門医取得ができます。

①総合内科コース

内科（Generality）専門医は勿論のこと、将来、内科指導医や高度な Generalist を目指す方も含まれます。将来の Subspecialty が未定な場合に選択することもあり得ます。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、専攻医研修期間の 3 年間に於いて内科領域を担当する全ての科をローテーションします。原則として 2 ヶ月を 1 単位として、1 年間に 4 科、3 年間で延べ 8 科を基幹施設でローテーションします。3 年目は地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します。また、連携施設 1 年間を目安にローテーションします（複数施設での研修の場合は研修期間の合計が 1 年間となります）。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。

②各科重点コース

希望する Subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。研修開始直後の 4 か月間は希望する Subspecialty 領域にて初期トレーニングを行います。この期間、専攻医は将来希望する内科において理想的医師像とする指導医や上級医師から、内科医としての基本姿勢のみならず、目指す領域での知識、技術を学習することにより、内科専門医取得への Motivation を強化することができます。その後、2 ヶ月間を基本として他科（場合によっては連携施設での他科研修含む）をローテーションします。研修 3 年目には、連携施設における当該 Subspecialty 科において内科研修を継続して Subspecialty 領域を重点的に研修するとともに、充足していない症例を

経験します。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望する Subspecialty 領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。なお、研修中の専攻医数や進捗状況により、初年度から連携施設での重点研修を行うことがありますが、あくまでも内科専門医研修が主体であり、重点研修は最長 1 年間とします。別紙 2 に示すこのコースでは、最初の 4 ヶ月間を Subspecialty の重点期間に当てていますので、連携施設での Subspecialty 重点期間が残る 8 ヶ月となります。Subspecialty 重点コースには最長 1 年間という期間制約があることをご留意ください。また、専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は、本コースを選択の上、担当教授と協議して大学院入学時期を決めて頂きます。

9. 専門医研修の評価[整備基準：17～22]

①形成的評価（指導医の役割）

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。

教育研修センターは指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し、必要に応じて指導医へ連絡を取り、評価の遅延がないようにリマインドを適宜行います。

②総括的評価

専攻医研修終了年の 3 月に J-OSLER を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29 例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

修了後に実施される内科専門医試験（毎年夏～秋頃実施）に合格して、内科専門医の資格を取得します。

③研修態度の評価

指導医や上級医のみでなく、メディカルスタッフ（病棟看護師長、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士など）から、接点の多い職員 5 名程度を指名し、研修管理委員会にて 2 カ月ごとに評価します。半期に 1 回多職種による評価のシート作成（内科学会の形式による）を行います。

④専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

半年に 1 回に研修指導責任者と現行プログラムに関する面談を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。web アンケートは別途定めます。

10. 専門研修プログラム管理委員会[整備基準：35～39]

研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を甲南医療センターに設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。プ

プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。

11. 専攻医の就業環境（労務管理）[整備基準：40]

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。労働基準法を順守し、甲南医療センターの「※専攻医就業規則及び給与規則」に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることとなります。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

※ 本プログラムでは基幹施設、連携施設の所属の如何に関わらず、基幹施設である甲南医療センターの統一的な就業規則と給与規則で統一化していますが、このケースが標準系ということではありません。個々の連携施設において事情は様々ですが、専攻医に配慮のある明確な諸規則を用意いたします。

12. 専門研修プログラムの改善方法 [整備基準：49～51]

毎月、専門研修委員会を甲南医療センターにて開催し、プログラムが遅滞なく遂行されているかを全ての専攻医について評価し、問題点を明らかにします。また、各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させます。また、研修プロセスの進行具合や各方面からの意見を基に、プログラム管理委員会は毎年、次年度のプログラム全体を見直すこととします。

専門医機構によるサイトビジット（ピアレビュー）に対しては研修管理委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け、プログラムの改善に繋がります。

13. 修了判定 [整備基準：21、53]

日本内科学会 J-OSLER に以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います。

- 1) 修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し、登録しなければなりません。
- 2) 所定の受理された 29 編の病歴要約
- 3) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
- 4) JMECC 受講
- 5) プログラムで定める講習会受講
- 6) 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価の結果に基づき、医師としての適性に疑問がないこと。

14. 研修プログラムの施設群 [整備基準：23～27]

甲南医療センターが基幹施設となり、神戸大学医学部附属病院、加古川中央市民病院、神鋼記念病院、神戸赤十字病院、北播磨総合医療センター、兵庫県立丹波医療センター、兵庫県立淡路医療センター、三田市民病院、明石医療センター、兵庫県立はりま姫路総合医療センター、神戸市立医療センター中央

市民病院、神戸市立西神戸医療センター、千船病院、大阪市立総合医療センター、淀川キリスト教病院、高槻病院、大阪府済生会中津病院、日本生命病院、兵庫県立加古川医療センター、長崎医療センター、特別連携施設の六甲アイランド甲南病院を加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。

15. 専攻医の受入数

甲南医療センターにおける専攻医の上限（学年分）は 10 名です。

- 1) 甲南医療センターに卒後 3 年目で内科系講座に入局した専攻医は過去 6 年間併せて 22 名で、1 学年 3-4 名の実績があります。
- 2) 剖検体数は 2019 年度 4 体、2020 年度 2 体、2021 年度 7 体、2022 年度 4 体、2023 年度 4 体です。
- 3) 経験すべき症例数の充足について

表. 甲南医療センター診療科別診療実績

2022 年実績	入院患者実数(人/年)
総合内科	702
消化器	1,267
循環器	1,028
内分泌	19
代謝	103
腎臓	454
呼吸器	291
血液	553
神経	197
アレルギー	32
膠原病	10
感染症	285
救急	415

- 4) 専攻医 2 年目～3 年目に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能・専門病院 4 施設、地域連携病院の 5 施設があり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。

16. Subspecialty 領域

内科専攻医になる時点で将来目指す Subspecialty 領域が決定していれば、各科重点コースを選択することになります。基本コースを選択していても、条件を満たせば各科重点コースに移行することも可能です。内科専門医研修修了後、各領域の専門医（例えば循環器専門医）を目指します。基幹施設である甲南医療センターで通算で 2-3 年間の専門研修を行います。

専攻医 1 年目から 3 年目の間に専攻医の希望を加味して、連携施設における専門研修の研修施設を調整し決定します。なお、研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）。

17.研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件[整備基準 33]

- 1) 出産、育児によって連続して研修を休止できる期間を 6 カ月とし、研修期間内の調整で不足分を補うこととします。6 か月以上の休止の場合は、未修了とみなし、不足分を予定修了日以降に補うこととします。また、疾病による場合も同じ扱いとします。
- 2) 研修中に居住地の移動、その他の事情により、研修開始施設での研修続行が困難になった場合は、移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。その際、移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します。この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります。

18.専門研修指導医[整備基準：36]

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です。専攻医を指導し、評価を行います。

【必須要件】

1. 内科専門医を取得していること。
2. 専門医取得後に臨床研究論文（症例報告含む）を発表する（「firstauthor」もしくは「corresponding. author」であること）。もしくは学位を有していること。
3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること。
4. 内科医師として十分な診療経験を有すること。

【(選択とされる要件（下記の 1、2 いずれかを満たすこと）

1. CPC、CC、学術集会（医師会含む）などへ主導的立場として関与・参加すること。
 2. 日本内科学会での教育活動（病歴要約の査読、JMECC のインストラクターなど）
- ※ 但し、当初は指導医の数も多く見込めないことから、すでに「総合内科専門医」を取得している方々は、そもそも「内科専門医」より高度な資格を取得しているため、申請時に指導実績や診療実績が十分であれば、内科指導医と認めます。また、現行の日本内科学会の定める指導医については、内科系 Subspecialty 専門医資格を 1 回以上の更新歴がある者は、これまでの指導実績から、移行期間(2025 年まで)においてのみ指導医と認めます。

19.専門研修実績記録システム、マニュアル等[整備基準：41～48]

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルにもとづいて行われます。専攻医は J-OSLER に研修実績を記載し、指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます。総括的評価は臨床検査専門医研修カリキュラムに則り、少なくとも年 1 回行います。

20.研修に対するサイトビジット（訪問調査）[整備基準：51]

研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります。サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われます。その評価はプログラム管理委員会に伝えられ、必要な場合は研修プログラムの改良を行います。

21.専攻医の採用と修了[整備基準：52]

1) 採用方法

甲南医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は、毎年4月から専攻医の応募を受付けます。プログラムへの応募者は、電話かメールで問い合わせの上、9末日までに甲南医療センター教育研修センター宛に履歴書を提出してください。原則として10月中に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については12月の甲南医療センター内科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

2) 研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の4月1日までに以下の専攻医氏名報告書を、甲南医療センター内科専門研修プログラム管理委員会および、日本専門医機構内科領域研修委員会に提出します。下記の書類を準備してください。

- 専攻医の氏名と医籍登録番号、内科医学会会員番号、専攻医の卒業年度、専攻医の研修開始年
- 専攻医の履歴書（様式15-3号）
- 専攻医の初期研修修了証

3) 研修の修了

全研修プログラム終了後、プログラム統括責任者が召集するプログラム管理委員会にて審査し、研修修了の可否を判定します。

審査は書類の点検と面接試験からなります。

点検の対象となる書類は以下の通りです。

- (1) 専門研修実績記録
- (2) 「経験目標」で定める項目についての記録
- (3) 「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録
- (4) 指導医による「形成的評価表」

面接試験は書類点検で問題にあった事項について行われます。

以上の審査により、内科専門医として適格と判定された場合は、研修修了となり、修了証が発行されます。

表 1. 専門研修施設群研修施設（剖検数は 2021 年度）

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	剖検数
基幹施設	甲南医療センター	461	250	9	23	24	4
連携施設	神戸大学医学部附属病院	934	268	11	84	111	14
連携施設	加古川中央市民病院	600	209	9	45	31	14
連携施設	神鋼記念病院	333	171	9	27	17	9
連携施設	神戸赤十字病院	310	128	7	11	11	7
連携施設	北播磨総合医療センター	450	150	9	36	31	6
連携施設	兵庫県立丹波医療センター	320	130	9	6	10	3
連携施設	兵庫県立淡路医療センター	441	164	6	16	15	11
連携施設	三田市民病院	300	94	4	9	9	0
連携施設	社会医療法人愛仁会 明石医療センター	382	215	6	20	19	4
連携施設	兵庫県立はりま姫路 総合医療センター	736	306	11	46	41	5
連携施設	神戸市立医療センター 中央市民病院	768	241	10	40	45	27
連携施設	神戸市立 西神戸医療センター	470	150	9	20	19	8
連携病院	社会医療法人愛仁会 千船病院	308	80	8	16	13	5
連携施設	大阪市立総合医療センター	1063	280	13	61	48	9
連携施設	淀川キリスト教病院	581	265	11	28	36	8
連携施設	社会医療法人愛仁会 高槻病院	477	186	11	16	15	4
連携施設	大阪府済生会中津病院	570	308	10	35	22	6
連携施設	日本生命病院	350	144	7	14	16	5
連携施設	兵庫県立 加古川医療センター	353	132	9	23	17	9
連携施設	長崎医療センター	643	290	12	29	23	12
特別連携 施設	六甲アイランド甲南病院	198	93	3	5	4	-

表 2.各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院名	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
甲南医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
神戸大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
加古川中央市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神鋼記念病院	○	○	○	△	○	△	○	○	○	△	○	△	○
神戸赤十字病院	△	○	○	△	○	△	○	△	○	△	△	△	○
北播磨総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫県立丹波医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫県立淡路医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三田市民病院	○	○	○	○	△	○	△	○	×	○	△	○	○
社会医療法人愛仁会明石医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
兵庫県立はりま姫路総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立医療センター中央市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立西神戸医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
社会医療法人愛仁会千船病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○
大阪市立総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
淀川キリスト教病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
社会医療法人愛仁会高槻病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○
大阪府済生会中津病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本生命病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫県立加古川医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長崎医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
六甲アイランド甲南病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	△	△	×

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

1) 専門研修基幹施設

公益財団法人甲南会 甲南医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・病院研修中は、専攻医として労務環境が保障されます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（院内 心の相談窓口・公認心理師/臨床心理士）があります。 ・ハラスメント委員会が（職員暴言・暴力担当窓口）が医療センター内（総務部、安全衛生課）に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務出来るように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 23 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を職員必須講習として定期的に開催し医療倫理講習会（2023 年度実績 1 回）、医療安全講習会（2023 年度実績 8 回）、感染対策講習会（2023 年度 2 回）を開催し専攻医にも受講を義務付けます。 ・CPC を定期的に開催 し(2023 年度 5 回)、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医に特定数以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちいずれかの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度 4 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、教育研修センターなどを設置しています。 ・倫理委員会を設置しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしており、関連学会での発表も定期的に行っています。 ・学術集会への参加を奨励し、学術集会参加費・出張費を支給しています。
指導責任者	小別所 博（神経内科分野） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は 1934 年に甲南病院として眺望のすばらしい御影の山手に開院され、以後地域の基幹病院として地域医療に貢献してきました。建物の老朽化もあり、2017 年より建て替え工事がはじまり、Ⅰ期工事が終了した 2019 年 10 月より甲南医療センターとして新しい一歩を踏み出しています。中でもこれまで以上に救急医療に力を入れ、年間約 7000 台の救急車を受け入れています。各診療科間の垣根は低く、指導医も多数在籍しており、内科医にとって必要なさまざまな経験を有意義に積めます。また、消化器病センター、糖尿病センター、血液浄化センター、IVR センター、PET センター、認知症疾患医療センターの 6 つのセンターが設立され、より質の高い医療を行える環境が整っています。2022 年春にはⅡ期工事が完了し、グランドオープンを迎えました。新しくなった当院で是非いっしょに内科専門医研修をスタートさせましょう。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 23 名 日本内科学会総合内科専門医 24 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名 日本消化器内視鏡学会専門医 9 名 日本肝臓学会肝臓専門医 7 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本糖尿病学会専門医 5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本腎臓学会専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本臨床腫瘍学会腫瘍専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 (救急科) 1 名 ほか
外来・入院患者数	(病院全体) 外来患者 17,259 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 10,817 名 (1 ヶ月平均) (内科全体) 外来患者 6,946 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 6,070 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の大部分の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療はもちろんですが、内科医にとって必須である地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベーション治療学会研修関連施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会肥満症専門病院 日本緩和医療学会認定研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 (連携施設) 日本神経学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

2) 専門研修連携施設

(1) 神戸大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・神戸大学医学部附属病院の医員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があり、ハラスメント委員会も整備されています。 ・女性専攻医のための更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病院職員としての利用が可能です（但し、数に制限あることと事前に申請が必要です）。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 84 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を職員必須講習として年 2 回開催し、専攻医にも受講を義務付けます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医に特定数以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で約 25 演題の学会発表をしています。
指導責任者	三枝 淳（腎臓・免疫内科学分野 免疫内科学部門） 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸大学医学部附属病院内科系診療科は、連携する関連病院と協力して、内科医の人材育成や地域医療の維持・充実に向けて活動を行っています。医療安全を重視し、患者本位の標準的かつ全人的な医療サービスが提供でき、医学の進歩にも貢献できる責任感のある医師を育成することを目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 84 名、日本内科学会総合内科専門医 111 名 日本消化器病学会消化器専門医 72 名、日本肝臓学会肝臓専門医 20 名、日本循環器学会循環器専門医 35 名、日本内分泌学会専門医 22 名、日本糖尿病学会専門医 27 名、日本腎臓病学会専門医 12 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 16 名、日本血液学会血液専門医 19 名、日本神経学会神経内科専門医 22 名、日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、日本リウマチ学会専門医 17 名、日本感染症学会専門医 5 名、日本救急医学会救急科専門医 16 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 延べ数 12,482 名 実数 2,437 名（内科のみの 1 ヶ月平均） 入院患者 延べ数 7,232 名 実数 586 名（内科のみの 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができますが、短期間なので希望により研修科を選択いただきます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診・病病連携なども経験できますし、大学病院ならではの専門・最先端医療も経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会総合内科専門医認定教育施設 日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定病院 日本消化器病学会消化器病専門医認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修 日本呼吸器学会呼吸器専門医認定施設 日本血液学会血液専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本糖尿病学会糖尿病専門医認定教育施設 日本腎臓学会腎臓専門医研修施設 日本肝臓学会肝臓専門医認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本感染症学会感染症専門医研修施設 日本老年医学会老年病専門医認定施設 日本神経学会神経内科専門医教育施設 日本リウマチ学会リウマチ専門医教育施設 日本集中治療医学会集中治療専門医専門医研修施設
-------------------------	--

2) 専門研修連携施設

(2)加古川中央市民病院

1) 専攻医の環境 【整備基準 24】	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・加古川中央市民病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部）があります。 ・ハラスメント委員会が人事部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	・日本内科学会指導医は45名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し（各複数回開催）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設が定期的に主催する研修施設群合同カンファレンスに参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（実績：2022年度10回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し（東播磨地域ネットワーク研究会→年3回、循環器懇話会→年2回中1回カンファレンス形式開催、在宅連携事例検討会→年3回他）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3) 診療経験の環境 【整備基準 24】	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。
4) 学術活動の環境 【整備基準 24】	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究・治験センターを設置しています。また治験審査委員会を設置し定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	西澤 昭彦 【内科専攻医へのメッセージ】 加古川中央市民病院は600床を有する総合病院で、充実した診療科を揃えて地域の急性期医療を担う中心的存在となっています。各内科領域の専門医が多く在籍しているため内科専門医・サブスペシャリティ専門医資格取得への質の高い研修ができます。救急診療、高度専門診療のみならず、一般的な内科診療も経験でき、内科医としての総合力が身につきます。勉強会に参加する機会も多く、自身の専門領域

	以外の知識も深めることができます。研修期間中に参加が必須とされる各種講習会（感染、医療安全、医療倫理）も定期的開催しており、受講ができます。 また、地域医療を担う一医師として、患者さんのみならず、院内スタッフ・周辺医療施設の医療従事者にも信頼されるよう頑張りたいと思います。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 47 名 日本内科学会総合内科専門医（内科）31 名 日本消化器病学会消化器専門医 14 名 日本循環器学会循環器専門医 16 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本老年医学会 1 名 日本肝臓学会肝臓専門医 5 名 日本腎臓病学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名 日本血液学会血液専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本リウマチ学会専門医(内科)6 名 日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医（救急科）5 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 30,220 名（病院全体 1 ヶ月平均） 入院患者 15,605 名（病院全体 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	・日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・日本アレルギー学会教育施設 ・日本老年医学会専門医制度認定施設 ・日本病院総合診療医学会認定施設 ・日本消化器病学会専門医制度認定施設 ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 ・日本動脈硬化学会専門医制度教育施設 ・日本高血圧学会認定研修施設 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 ・日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設 ・日本血液学会血液研修施設 ・日本リウマチ学会認定研修施設

	・ 日本腎臓学会研修施設 ・ 日本神経学会准教育施設 ・ 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・ 日本高血圧学会専門医認定施設 ・ 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 ・ 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 ほか
--	---

2) 専門研修連携施設

(3) 神鋼記念病院

1) 専攻医の環境 【整備基準 24】	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神鋼記念病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事所管室職員担当）があります。 ・ハラスメント相談員が人事所管室に専従しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近隣に契約保育所があり、利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	・日本内科学会指導医は 27 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年 3 回程）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（神鋼記念病院地域連携講演会、東神戸総合内科講演会、東神戸臨床フォーラム、東神戸呼吸器疾患講演会、神鋼循環器セミナー、神鋼糖尿病セミナー、神戸膠原病腎臓カンファレンス、など）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3) 診療経験の環境 【整備基準 24】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、循環器、血液、膠原病、神経、代謝、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4) 学術活動の環境 【整備基準 24】	・総合医学研究センターを設立し、医学・医療の発展のために臨床医学研究を推進し、高度先進医療の支援や共同研究を行なっています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ・治験委員会を設置し、定期的受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（年間 7～8 演題）をしています。
指導責任者	岩橋 正典 【内科専攻医へのメッセージ】 神鋼記念病院は、神戸の中心地に位置する急性期総合病院であるとともに、地域に根ざした第一線の病院でもあります。このことから臓器別の Subspecialty 領域（総合内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、血液内科、リウマチ膠原病内科、脳神経内科、糖尿病代謝内科、腫瘍内科、救急）に支えられた高度な急性期医療とコモンディージーズが同時に経験できます。

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 27 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医 3 名、日本リウマチ学会専門医 3 名、 日本肝臓学会専門医 1 名、感染症専門医 1 名 ほか
外来・入院 患者数	延べ外来患者 19,213 名（1 ヶ月平均）、延べ入院患者 8,612 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 臨床研修研究会臨床研修指定病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本乳癌学会関連施設 アレルギー学会認定施設 日本脳卒中学会認定施設 日本神経学会准教育施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関など

2) 専門研修連携施設

(4) 神戸赤十字病院

認定基準 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度教育病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 神戸赤十字病院常勤嘱託医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（心療内科）があります。 ・ ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・ 女性医師が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 11 名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者、プログラム管理委員会委員長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修センターを設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（HAT 呼吸器疾患検討会等）を定期的に行い、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（すくなくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 4) 学術活動の環境	・ 臨床研修に必要な図書室を整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に行っています。 ・ 治験管理委員会を設置し、随時受託研究審査会を開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	土井智文 循環器内科部長 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸赤十字病院は兵庫県神戸市医療圏の中心的な急性期病院であり、西播医療圏・近隣医療圏にある連携施設として内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院まで啓発的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整も包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	内科学会総合内科専門医 1 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名

	日本糖尿病学会専門医 1 名 日本臨床神経生理学会専門医 1 名 日本脳卒中学会専門医 1 名 日本認知症学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 508.5 名（前年度 1 日平均患者数） 入院患者 253.0 名（前年度 1 日平均患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる・地域医療・診療連携	急性期疾患だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本神経学会認定准教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会認定医制度研修診療施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本リウマチ学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

2) 専門研修連携施設

(5) 北播磨総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 北播磨総合医療センター常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ ハラスメント防止委員会が設置されており、各種ハラスメントに対処しています。 ・ メンタルストレスについては、経営管理課が窓口となり、院内に臨床心理士及び産業医を配置し対処しています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に 24 時間利用可能な院内保育所があり、平日 8 時から 18 時は病児保育にも対応しています。 ・ 宿舎は、病院敷地内宿舎若しくは三木市・小野市エリアで、単身用借上宿舎の提供又は住居手当による対応を予定しています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 36 名在籍しています。（下記） ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（副院長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設に研修する専攻医の専門研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2023 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（北播磨総合内科セミナー、北播磨消化器循環器連携懇話会、北播磨病診連携講演会、北播磨 Vascular Meeting など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（毎年度 1 回開催予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室などの環境を整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を行っています。 ・ 学術集会への参加を奨励し、参加費・出張旅費を支給しています。
指導責任者	安友佳朗 【内科専攻医へのメッセージ】 北播磨総合医療センターは、「患者にとって医療機能が充実し、安心して医療を受けられること」また「医師、技師、看護師などの医療人にとって人材育成能力が高く、やりがいがあり、働き続けられる環境であること」など、「患者にとっても、医療人にとっても魅力ある病院となること」を目指して

	2013年10月に開院した病院です。 教育熱心な指導医のもと内科全般の主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉までの診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成を病院全体で支えます。
指導医数 (常勤医)	・日本内科学会指導医 36 名 ・日本内科学会総合内科専門医 31 名 ・日本消化器病学会消化器専門医 8 名 ・日本循環器学会循環器専門医 11 名 ・日本糖尿病学会専門医 4 名 ・日本腎臓病学会専門医 4 名 ・日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名 ・日本血液学会血液専門医 3 名 ・日本神経学会神経内科専門医 5 名 ・日本リウマチ学会専門医 6 名 ・日本内分泌学会専門医 2 名 ・日本救急医学会救急科専門医 2 名 ・日本感染症学会感染症専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,044 名 (1 日平均患者数) 入院患者 340 名 (1 日平均患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる・地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	・日本内科学会認定医制度教育病院 ・日本老年医学会認定施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設 I ・日本内分泌学会認定教育施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ・経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 ・日本高血圧学会認定研修施設 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設 ・日本消化器病学会専門医制度認定施設 ・日本消化器内視鏡学会指導施設 ・日本血液学会専門研修認定施設 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設 ・日本腎臓学会研修施設 ・日本透析医学会教育関連施設 ・日本神経学会専門医制度教育施設 ・日本脳卒中学会研修教育病院 ・日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 ・日本脈管学会研修指定施設 ・日本リウマチ学会リウマチ教育施設 ・日本リハビリテーション医学会研修施設 ・日本認知症学会専門医制度教育施設 ・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設

	・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 ・日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練機関 ・日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 ・病院総合医育成プログラム認定施設 ・IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 ・経カテーテル心筋冷凍焼灼術認定施設 ・日本脳卒中学会一次脳卒中センター ・日本アフェレシス学会認定施設 ・輸血機能評価認定制度(I&A) 認証施設 ・日本膵臓学会認定指導施設 ・放射線科専門医総合修練機関 ・日本動脈硬化学会認定専門医認定教育施設 ・画像診断管理認証施設 ・日本感染症学会研修施設 ・日本血栓止血学会認定医制度認定施設 ・日本禁煙学会教育施設 ・日本脳ドック学会施設認定 ・日本緩和医療学会認定研修施設 ・日本放射線腫瘍学会認定施設 ・日本核医学専門教育病院 ・日本血液学会専門教育施設（小児科） ・日本臨床神経生理学会認定施設 ・日本病院総合診療医学会認定施設 など
--	---

2) 専門研修連携施設

(6) 兵庫県立丹波医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・スキルスラボが整備されています。 ・地域医療教育センターが設置され、神戸大学からの特命教授等による教育が受けられます。 ・兵庫県職員（会計年度任用職員）医師として勤務環境が保障されています。 ・メンター制度を整備しています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康なやみ相談室）が兵庫県職員健康管理センター内にあります。 ・産業医、公認心理師と面談（希望者）ができる制度があり、利用可能です。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に保育所があり、利用可能です。 ・宿舎は、当院近辺で、単身用借上宿舎を提供しています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 6 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（院長）、プログラム管理者（副院長）（総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2021 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行う（2020 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・TV 会議システムを用いた神戸大学病院等との合同カンファレンスを開催しています。 ・CPC を定期的に行う（2021 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（オープンセミナー、地域医療連携懇談会、地域医療連携症例検討会など）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2020 年度開催実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修委員会が対応します。 ・特別連携施設（丹波市健康センターミルネ診療所）の専門研修では、週 1 回の面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。

認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年度実績 5 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理審査委員会を設置し、定期的開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 9 演題）をしています。
指導責任者	河崎 悟 【内科専攻医へのメッセージ】 県立丹波医療センターの内科は米国型 GIM の体制で運営されていること、さらに緩和ケア病棟をもつことが大きな特徴です。臓器別内科ローテートとは違う研修が受けられます。内科指導医は非常に教育のマインドが強く、また神戸大学からの教育支援をこれほど受けている病院は他にはありません。ジェネラルなマインドをもった内科専門医になることができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会内視鏡専門医 4 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本消化管学会消化管専門医 1 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 171.1 名（1 日平均） 入院患者 256.7 名（1 日平均） ※2022 年度実績
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、44 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる・地域医療・診療連携	急性期疾患だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本肝臓学会関連施設、日本腎臓学会研修施設、日本胆道学会認定指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本病理学会研修登録施設、日本病院総合診療医学会認定施設など

2) 専門研修連携施設

(7) 兵庫県立淡路医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 兵庫県会計年度任用職員（常勤医師）として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が兵庫県立淡路医療センターに整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 16 名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修・研究センター2019 年度に設置。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2022 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（淡路循環器病研究会、淡路病診連携カンファレンス、淡路医師会勉強会、消化器病症例検討会など；2021 年度実績 8 回、2022 年度実績 6 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検（2021 年度実績 8 体、2022 年度実績 11 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022 年度実績 4 回）しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2022 年度実績 4 回）しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 2 演題、2022 年度実績 1 演題）をしています。
指導責任者	奥田 正則 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立淡路医療センターは、兵庫県淡路医療圏の中心的な急性期病院であり、淡路医療圏・近隣医療圏にある連携施設と協力して内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院後〈初診・入院～退院・通院〉までの診断・治療の流れを通じて、社会的背景や療養環境の調整も含めた全人的医療を実践できる内科専門医が到達目標です。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本心血管インターベンション学会専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本老年医学会老年病専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 270 名 (内科系: 1 日平均) 入院患者 142 名 (内科系: 1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる・地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会連携施設 日本超音波医学会研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本病理学会研修登録施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本血液学会専門研修教育施設 日本神経学会準教育施設 日本老年医学会認定施設

2) 専門研修連携施設

(8) 三田市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 三田市嘱託医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が三田市役所に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 9 名在籍しています（別紙）。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（副院長）とともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会の事務局としてプログラムを運営する臨床研修センターを設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 5 回医療倫理 1、医療安全 2、感染対策 2）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2023 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2023 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（けやき台フォーラム、六甲北消化器疾患研究会、北神 IBD カンファレンス、六甲有馬循環器カンファレンス、三田循環器ミーティング）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、8 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうち 50 以上の疾患群について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検（2023 年度 3 体）を行っています。 ・ 病床数 300 床
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 臨床倫理委員会を設置し、開催（2023 年度実績 ? 回）しています。 ・ 研究倫理審査委員会を設置し、定期的に受託研究の審査（2023 年度実績 ? 回）をしています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 3 演題）をしています。 ・ 学術集会の参加費、交通費、宿泊費を支給して支援しています。
指導責任者	院長補佐 中村 晃 【内科専攻医へのメッセージ】 三田市民病院は、三田市唯一の急性期総合病院で、人口約 20 万人の北摂三田地域とさらに北部の広域を含めた地域の中核病院として、日常良く遭

	遇する一般的な疾病から高度な医療を必要とする疾病まで多彩な症例を短期間で経験することができます。中規模病院の特性として各診療科間の垣根がなく、各科の協力連携のもとに有意義な研修を行っています。当研修プログラムは、それぞれ特異的な連携施設群から構成され、当院で充足できない研修については強力な連携施設群で補う万全の体制を敷いています。近代的なニュータウンと自然豊かな田園風景の二つの顔を併せ持つ田園都市という抜群の環境での研修生活が待っています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者数 4,357 人 (1 ヶ月延数平均) 入院患者 2,661 人 (1 ヶ月延数平均) (内科のみ延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる・地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度教育関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本心血管インターベンション学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本胆道学会指導施設 日本消化管学会暫定処置による胃腸科指導施設

2) 専門研修連携施設

(9) 社会医療法人愛仁会 明石医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・明石医療センター常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署及びハラスメント委員会として労働安全衛生委員会が病院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内の近くに院内保育所があり、利用可能です。 (申請の時に説明・書類手続きがある為必ず事前にご連絡をお願い致します)
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医は 20 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行う(年間 4 回程度)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(感染防止対策地域カンファレンス 2 回、地域医療連携の会 1 回等)を定期的に行う、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を予定しています。 レジデントのための臨床研究ワークショップを定期的に行い臨床研究について勉強する機会を設けています。 症例報告や臨床研究の学会報告や論文作成も活発に行い、医学統計専門家や外国人講師による英文校正の指導を受けることができます。
指導責任者	中島 隆弘 【内科専攻医へのメッセージ】 明石医療センターは「患者さんを中心に、その期待に応える医療を行い、地域との連携を密にして、社会に貢献します」という理念のもと、明石市の中心的な急性期病院として、地域に根差した医療を行っています。専門内科(呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科)および総合内科の指導医は充足しており、サブスペシャリティの研修はもちろんのこと、総合内科医として幅広い研修が可能です。2019 年度から救急科専門医が赴任し、コモンディーズから高度急性期医療まで、さらに幅広い診療が可能となりました。外科系の診療科は、心臓血管外科、外科、呼吸器外科、整形外科、産婦人科が活発に診療しており垣根の低い連携が可能です。また症例報告や臨床研究にも力を入れており、学会発表・論文作成の指導体制も整っており、毎年研修医・専攻医の英語論文がアクセプトされています。症例の少ない疾患に関しては、それらの症例を経験できるように考慮した関連病院での研修が可能であり、3 年間で 13 領域、70 疾患群の症例を十分に経験することができます。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 20 名、日本内科学会総合内科専門医 19 名、 日本循環器学会専門医 7 名、日本呼吸器学会専門医 5 名、 日本消化器病学会専門医 10 名、日本消化器内視鏡学会専門医 7 名、 日本呼吸器内視鏡学会専門医 3 名、日本肝臓学会専門医 3 名、 日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名、 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 2 名、日本感染症学会専門医 3 名、 日本腎臓学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本内分泌代謝科専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,886 名 (内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数) 入院患者 6,862 名 (内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づき ながら幅広く経験することができます。
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連 携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本透析医学会専門医教育関連施設、社団法人 日本感染症学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施 設、循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日 本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、I M P E L L A 補助循環用ポンプカ テーテル実施施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会 指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施 設、一般社団法人日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設 (呼吸器内 科) など

2) 専門研修連携施設

(10) 兵庫県立はりま姫路総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 兵庫県立病院会計年度任用職員として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 46 名在籍しています（下記） ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2023 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（姫路市内科専門研修 Group カンファレンス、はり姫健康講座、地域連携カンファレンス、高機能シミュレータ医療研修講座、地域の総合医と専門医を繋ぐプロジェクトなど）を定期的に開催・参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の分野で定期的に専門研修が可能です。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・ 専門研修に必要な剖検（2023 年度 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・ 臨床研究審査委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 5 演題）をしています。
指導責任者	大内 佐智子 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立はりま姫路総合医療センターは、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院であり、可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざします。 当院はドクターヘリを擁する救命救急センターを併設しており、救急医療を数多く経験できます。救急科と内科で密接に連携して救急患者の診療に当たっています。すべての内科系専門領域をカバーしており、全分野において研修ができます。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 46 名、日本内科学会内科専門医 10 名、日本内科学会認定内科医 49 名、日本内科学会総合内科専門医 41 名、日本循環器学会循環器専門医 21 名、日本神経学会脳神経内科専門医 6 名・指導医 4 名、日本糖尿病学会専門医 5 名・指導医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 5 名・指導医 4 名、日本消化器病学会専門医 8 名・指導医 4 名、日本消化器内視鏡学会専門医 7 名・指導医 4 名、日本肝臓学会専門医 4 名・指導医 2 名、日本腎臓学会専門医 2 名・指導医 1 名、日本透析医学会専門医 3 名・指導医 1 名、日本呼吸器学会専門医 4 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2 名・指導医 1 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 3 名・指導医 2 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本緩和医療学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	内科系診療科外来患者 9,972 名 (2023 年度 1 ヶ月平均) 内科系診療科入院患者 8,123 名 (2023 年度 1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本病院総合診療医学会認定基幹施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本超音波医学超音波専門医研修施設、心エコー図専門医制度研修施設、日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設、日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設、日本心臓リハビリテーション認定研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会卵円孔閉鎖術実施施設、日本成人先天性心疾患学会認定成人選定性心疾患専門医連携修練施設、ペースメーカ移植術認定施設、埋込型除細動器移植術認定施設、両心室ペースメーカ移植術認定施設、両心室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術認定施設、経静脈電極抜去術 (レーザーシースを用いるもの) 認定施設、経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、経カテーテル的大動脈弁置換術専門施設、MitraClip 実施施設、WATCHMAN/左心耳閉鎖システム実施認定施設、PFO 閉鎖術実施施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、植込み型 VAD 管理施設、日本神経学会教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設 I、日本内分泌学会認定教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本透析医学会認定施設、日本呼吸器学会連携施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設 (連携施設)、日本血液学会研修教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本緩和医療学会認定研修施設、ほか

2) 専門研修連携施設

(11) 神戸市立医療センター中央市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神戸市立医療センター中央市民病院の任期付正規職員として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対応出来るよう相談窓口（市役所）を設置しています。 ・ハラスメントの防止及び排除並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合、迅速かつ適切な問題解決を図るためハラスメント相談窓口及びハラスメント防止対策委員会を設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は40名在籍しています（下記）。 ・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（医療安全：実績6回、感染対策：2回、医療倫理：1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催（2023年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（腹部超音波カンファレンス、びまん性肺疾患勉強会、がんオープンカンファレンス、緩和ケアセミナーなど 2023年度実績22回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2021年度実績23体、2022年度実績19体、2023年度実績27体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、学術支援センターなどを設置しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ・臨床研究推進センターを設置しています。 ・定期的にIRB、受託研究審査会を開催（2023年度実績12回）しています。

	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表 (2023 年度実績 8 演題) をしています。
指導責任者	古川 裕 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の診療体制の大きな特徴は、北米型 ER (救命救急室)、つまり 24 時間・365 日 を通して救急患者を受け入れ、ER 専任医によって全ての科の診断および初期治療を 行い、必要に応じて各専門科にコンサルトするというシステムにあります。年間の救 急外来患者数は 26,000 人以上、救急車搬入患者数も 8,000 人を超え、独立した 救急部と各科スタッフ、初期研修医、専攻医が緊密に連携して、軽傷から重症までの あらゆる救急患者に対応しています。この中で専攻医は初期研修から各科の専門的 診療に至る過程で重要な役割をはたしており、皆さんがどの診療科を選択しても、大 学病院など 3 次救急に特化した施設では得られない、医療の最前線の広範な経験を 重ねることができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 40 名 日本内科学会総合内科専門医 45 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名 日本アレルギー学会専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 12 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 6 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名 日本感染症学会専門医 4 名 日本腎臓学会専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名 日本老年医学会老年病専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 9 名 日本肝臓学会肝臓専門医 6 名 日本神経学会神経内科専門医 9 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 5 名 日本救急医学会救急科専門医 14 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 34,435 名 (1 ヶ月平均) 2023 年度 入院患者 19,447 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群 の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム 基幹施設 日本老年医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベーション学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会指定研修施設 呼吸器専門研修プログラム 基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本感染症学会研修施設 日本環境感染学会教育施設 日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士実地修練認定教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本禁煙学会教育施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本臨床腫瘍内科学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門研修施設 救急科専門医指定施設 など

2) 専門研修連携施設

(12) 神戸市立西神戸医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人神戸市民病院機構（以下、「機構」という）の任期付正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するため外部相談窓口を設けています。 ・ハラスメント防止対策委員会が機構内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 ※要事前相談
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科指導医は 20 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（年間 5 回～10 回程度）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（神戸西地域合同カンファレンス 3 回程度、各種カンファレンス他）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を予定しています。 倫理委員会を設置し定期的で開催しています。 治験委員会を設置し定期的な受託研究審査会を開催しています。
指導責任者	永澤 浩志 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸市立西神戸医療センターは神戸市西区を中心とした西地域の中心的な急性期病院であり、地域に密着した救急医療と、がん診療連携拠点病院としての高度医療を 2 本柱としています。コモンディジーズから重症疾患まで、幅広い症例を経験できます。結核病棟（45 床）を有しており、結核症例も豊富です。 また、当院は平成 6 年の開院当初より地域医療室を開設しており、一貫して地域

	連携を推進しています。さまざまな病診、病病連携について経験可能です。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 20 名 日本内科学会総合内科専門医 19 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名 日本肝臓学会専門医 4 名ほか 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本腎臓病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名 日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名 日本アレルギー学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 10,858 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月 延べ患者数） 入院患者 4,938 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月 延べ患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例の多くを幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医教育関連施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本血液学会血液研修施設、日本神経学会准教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設など

2) 専門研修連携施設

(13) 社会医療法人愛仁会 千船病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・千船病院常勤医師として、法人の規定に則り勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスおよびハラスメントに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接地（徒歩約 1 分）に院内保育所があり、事前手続きにより利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 16 名在籍しています。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と診療部支援室を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（過去実績 5-12 回/年）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（過去実績 5-8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・特別連携施設（日高クリニック）の専門研修では、電話やメール、週 1 回程度の千船病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。 ・日本専門医機構による施設実地調査に、診療部支援室とプログラム管理委員会とで対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、脳神経、呼吸器、感染症および救急で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほとんどの疾患群（少なくとも定常的に 33 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（過去実績 5-13 件/年）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会および治験管理委員会を定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。

指導責任者	尾崎 正憲（内科教育責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院のプログラムの目指す内科医像は、総合内科的な力を有するサブスペシャリティ医、病院総合内科医、内科救急医、さらに地域医療の第一線で活躍するプライマリ・ケア医を育成することを目標としています。そのため１年目ではできるだけ幅広く各内科で研修を行い、２年目以降にサブスペシャリティ研修を並行して行います。知識や技能だけでなく、医師としてのプロフェッショナリズムを養成し、社会のニーズに対応できる可塑性のある内科医を育てるのが我々の使命と考えています。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名、日本消化器病学会消化器病専門医 4 名、日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本透析医学会専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本動脈硬化学会認定動脈硬化専門医 1 名、日本病院総合診療学会認定医 3 名
外来・入院患者数	外来患者数 5,530 名（1 ヶ月平均）、入院患者数 193 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例の多くを幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本肝臓学会肝臓専門医制度特別連携施設、日本腎臓学会教育施設、日本透析医学会専門医制度教育関連施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本呼吸器学会連携施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本動脈硬化学会専門医制度教育施設

2) 専門研修連携施設

(14) 大阪市立総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・臨床研修指定病院（基幹型臨床研修病院）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪市民病院機構職員（有期雇用職員）として労務環境が保障されています。 ・大阪市民病院機構としてメンタルヘルスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに関する相談窓口があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、医局・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 57 名在籍しています。 ・ともに総合内科専門医かつ指導医である、内科プログラム管理委員会（統括責任者：副院長）、プログラム管理者（診療部長）が各研修施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会と事務局を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会（2021 年度実績 7 回）を定期的に行い専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC（2022 年度実績 6 回）を定期的に行い専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスである都島メディカルカンファレンス（年 1 回）、がんサバド（年 6 回）、学術講演会（年 1 回）、DMnet one 研究会（年 5 回）等を定期的に行い専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC（2020 年度開催実績 2 回：受講者 9 名、2021 年度開催実績 2 回：受講者 9 名、2022 年度開催実績 2 回：受講者 12 名）の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・内科専門研修管理委員会と事務局は日本専門医機構による施設実地調査に対応します。 ・特別連携施設（大阪市立弘済院附属病院）の専門研修では、電話・大阪市立総合医療センターでの面談（週 1 回）・カンファレンス等により指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうち、ほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 9 体、2021 年度実績 6 体、2022 年度 9 体）を行っています。

認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室等を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2022 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で多数の学会発表（2022 年度実績 118 演題）をしています。
指導責任者	成子 隆彦 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪市立総合医療センターは、大阪市の中心的な急性期病院であり大阪市医療圏・豊能医療圏にある連携施設・特別連携施設と連携し内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景や療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 57 名(2022 年度) 日本内科学会総合内科専門医 48 名、日本消化器病学会専門医 13 名、 日本肝臓学会専門医 4 名、日本循環器学会専門医 8 名、 日本内分泌学会専門医 (内科) 7 名、日本腎臓病学会専門医 8 名、 日本糖尿病学会専門医 11 名、日本呼吸器学会専門医 7 名、 日本血液学会専門医 5 名、日本神経学会専門医 6 名、 日本アレルギー学会専門医 (内科) 2 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本感染症学会専門医 5 名ほか(2022 年度)
外来・入院患者数	外来患者 174,577 名(年間) 内科系入院合計 88,633 名(年間) 内科系のみ(2021 年)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携等も経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会認定施設

	日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本アレルギー学会専門医教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設等 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本てんかん学会てんかん専門医制度認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本甲状腺学会認定専門医認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本肝臓学会認定医制度認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設栄養サポートチーム専門療法士修練施設 日本感染症学会認定研修施設 等
--	--

2) 専門研修連携施設

(15) 淀川キリスト教病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。貸与されたタブレット端末を用いて電子ジャーナル検索がいつでもできます。 ・淀川キリスト教病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルス推進課）があります。 ・ハラスメント相談窓口およびハラスメント防止・対応マニュアルが淀川キリスト教病院グループ内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地外に院内保育所があり、利用可能です。また院内で病児保育の利用も可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 28 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターが設置されています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2023 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2023 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2023 年度実績 7 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラム所属の全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催実績 1 回：受講者 5 名）を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、資料作成室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催（2023 年度実績 11 回）しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的で開催（2023 年度実績 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 14 演題）をしています。
指導責任者	紙森 隆雄 【内科専攻医へのメッセージ】 淀川キリスト教病院は、全人医療を理念とし、幅広い診療科と高度な医療機器を備え、大阪市北部・北摂地域の医療の中心的役割を担っている 581 床の急性期総合病院で

	す。現在大阪府がん診療拠点病院および地域医療支援病院、DPC 特定病院群に指定され、年間 7000 件前後の救急搬送実績があります。内科は 11 科からなり、内科全領域の指導医・経験豊かなスタッフが在籍しています。豊富な症例経験と、専攻医一人一人のニーズに合わせたきめ細かい指導を提供いたします。サブスペシャリティ領域を含めた質の高い内科専門医を目指す皆様と、内科を研鑽する時間を共有できることを心待ちにしています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 28 名、日本内科学会総合内科専門医 36 名、 日本消化器病学会消化器専門医 11 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、 日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本内分泌学会専門医 2 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、日本血液学会認定血液専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医 6 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、がん薬物療法専門医 2 名、 日本感染症学会 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 12 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 10,873 名 (2023 年度平均延数/月) 新入院患者 542 名 (2023 年度平均数/月)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会専門医研修教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設、日本緩和医療学会認定教育施設 など

2) 専門研修連携施設

(16) 社会医療法人愛仁会 高槻病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・愛仁会高槻病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神科医師担当）があります。 ・ハラスメント委員会が管理科に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院に隣接して院内保育所があり利用可能です。（但し、数に制限あることと事前に申請が必要です） ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医は 16 名在籍しています。 ・愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者とともに総合内科専門医かつ指導医：2016 年度設置）が連携施設に設置されている各研修委員会との連携を図ります。 ・愛仁会高槻病院内において研修する専攻医の研修を管理する愛仁会高槻病院内科専門研修委員会は 2016 年度に設置され、愛仁会高槻病院臨床研修センター（全診療科）を中心に活動しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスの主催開催を計画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2018 年度実績 15 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に愛仁会高槻病院臨床研修センター（2016 年度設置）が対応します。 ・特別連携施設（愛仁会しんあいクリニック・井上病院）の専門研修では、愛仁会高槻病院の指導医が面談・カンファレンスなどにより、その施設での研修指導管理を行います。 ※地域参加型カンファレンス等、コロナウイルス感染対策のため回数制限や実施をしませんでした。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修でき

	ます。 ・専門研修に必要な剖検（23年度2体、22年度4体、21年度4体、19年度6体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理審査委員会を設置し、本審査を開催（2019年度実績2回、2020年度実績1回、2021年度実績1回、2022年度実績0回、2023年度実績0回）しています。また、定期的に迅速審査を開催（2019年度12回、2020年度12回、2021年度12回、2022年度12回、2023年度12回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	高岡 秀幸 【内科専攻医へのメッセージ】 愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムは、大阪府三島医療圏の中心的な急性期病院である愛仁会高槻病院で豊富なコモディーズ・救急症例を中心に研修します。連携施設が多く、Subspecialty重視のコースも、総合内科的なコンピテンシーを強化したいコースも提供できます。いずれも主担当医として入院から退院まで経時的に治療と療養環境調整の実践を修得し、今後の社会のニーズに合致したジェネラルなマインドを持った内科専門医の養成を目指しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 16名、日本内科学会総合内科専門医 15名、 日本消化器病学会消化器専門医 6名、日本消化器内視鏡学会専門医 4名、 日本循環器学会循環器専門医 12名、 日本糖尿病学会専門医 3名、日本腎臓学会専門医 1名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6名、日本血液学会血液専門医 1名、 日本神経学会神経内科専門医 3名、日本救急医学会救急科専門医 5名、 日本内分泌学会専門医 1名、日本不整脈学会専門医 1名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 7,486名、入院患者 6,007名（内科系1ヶ月平均 延べ患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度教育関連施設、 日本神経学会専門医制度准教育施設、日本脳卒中学会専門医制度教育病院、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本アレルギー学会専門医教育研修施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設など

2)専門研修連携施設

(17)大阪府済生会中津病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度研修指定病院（基幹型・協力型）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・済生会中津病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 35 名在籍しています。 ・研修委員会：各内科系診療科の代表・臨床教育部部長などで構成され、基幹施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。 ・研修委員会と臨床教育部で専攻医の研修状況を管理し、プログラムに沿った研修ができるよう調整します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・各診療科が参加している地域参加型のカンファレンスに専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちほぼ全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年度 4 体、2022 年度 6 体、2023 年度 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、必要時に開催（2023 年度実績 2 回）しています。 ・治験審査委員会と臨床研究倫理審査委員会を設置し、各々審査会を開催（2023 年度実績 12 回、4 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	高田 俊宏 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪府済生会中津病院は、2023 年 1 月から急性期充実加算を取得し、急性期病院としてさらなる充実と発展を遂げるべく努力をしています。2023 年 4 月からは、隣接した大淀地区に大阪北リハビリテーション病院が新たに開院し、従来からの訪問看護ステーション、特別養護老人ホームと合わせ、福祉医療センターとして、入院から退院、療

	養まで切れ目のない医療福祉サービスを地域に提供していく体制をとっています。 専攻医は、主担当医として、入院から退院＜初診・入院から退院・通院＞まで経時的に、診断・治療、退院指導、退院支援を行い、診療行為を通して、全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう指導します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 35 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名、日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医 4 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本老年医学会老年病専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者（内科）13,461 名（1 ヶ月平均） 入院患者（内科）579 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	・日本内科学会認定医制度内科専門医教育病院 ・日本呼吸器学会認定医制度認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本心血管インターベンション学会認定研修施設 ・日本心血管カテーテル治療学会 ・日本消化器病学会認定医制度認定施設 ・日本消化器内視鏡学会認定指導施設 ・日本神経学会認定医制度教育施設 ・日本アレルギー学会認定準教育施設 ・日本血液学会認定研修施設 ・日本リウマチ学会教育施設 ・日本腎臓学会研修施設 ・日本透析医学会認定医制度認定施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設 ・日本内分泌学会内分泌代謝科専門認定教育施設 ・日本脳卒中学会認定研修教育病院 ・日本肥満学会認定肥満症専門病院 ・日本感染症学会認定研修施設 ・日本老年医学会認定施設 ・日本認知症学会認定施設 など

2)専門研修連携施設

(18)日本生命病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本生命病院常勤医師としての勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床研修部及び総務人事グループ担当）があります。 ・ハラスメント相談窓口が設置されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は14名在籍しています。（2024年4月現在） ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医 JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70の疾患群のうちほとんどの疾患群について研修できます。（上記） ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・倫理委員会および治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	橋本 久仁彦 【内科専攻医へのメッセージ】 日本生命病院は、「済生利民」を基本理念とする日本生命済生会が昭和6年に設立しました。現在では28診療科・9診療センター、病床数350を擁する大阪西部地域の基幹病院へと発展しており、予防から治療・在宅まで一貫した医療サービスの提供を目指しています。急性期医療だけでなく、慢性期医療や地域医療にも貢献できる可塑性のある内科専門医を育成し、リサーチマインドを育てます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医14名、 日本内科学会総合内科専門医16名、 日本消化器病学会消化器専門医7名、 日本消化器内視鏡学会専門医6名、 日本肝臓学会専門医3名、

	日本循環器学会専門医 4 名、 日本高血圧学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本内分泌学会専門医 2 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会専門医 4 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会専門医 2 名、 日本腎臓学会専門医 2 名、 日本透析医学会専門医 2 名、 日本老年学会老年病専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 389 名（一日平均） 入院患者 165 名（一日平均）（2023 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会専門医制度

2) 専門研修連携施設

(19) 兵庫県立加古川医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・兵庫県会計年度任用職員（常勤医師）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 23 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（脳神経内科内科部長）、プログラム管理者（総合内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2023 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2022 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（播磨消化器疾患勉強会 2023 年度実績 1 回など）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 9 分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 9 体、2021 年度実績 7 体、2020 年度 0 体（COVID の影響））を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 6 演題）をしています。

指導責任者	奥田 志保 【内科専攻医へのメッセージ】 県立加古川医療センターは、兵庫県の政策医療として東播磨地域の3次救命救急医療を担うと同時に、生活習慣病医療、緩和ケア医療、神経難病医療、感染症医療の充実という役割を担っています。すなわち疾病予防から、生活習慣病にかかわる疾患の急性期医療から慢性期医療、がん医療まで幅広い病態に対応し、さらには終末期医療も行うという内科としてあらゆる病期ステージに対応しているのが特徴です。肝疾患、消化器疾患については地域の拠点病院として機能していますが、糖尿病・内分泌代謝疾患については兵庫県全域の拠点病院となり、地域のみならず兵庫県全県的なネットワークによる医療連携を実現しています。施設統合により膠原病内科および腎臓内科が稼働を始め、膠原病類縁疾患、腎疾患についても数多くの症例を経験可能です。内科各領域が高度な専門医療を提供している施設であるため、研修達成度によっては期間内に Subspecialty 研修との並行研修も可能です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名、 日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本肝臓学会専門医 8 名、 日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 5 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本リウマチ学会専門医 5 名、日本腎臓学会専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 6,068 名 (1ヶ月平均) 入院患者 2,329 名 (2021 年度実数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本神経学会准教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設

2) 専門研修連携施設

(20) 長崎医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・長崎医療センターの非常勤医師としての採用となり、諸手当（当直・時間外・賞与・通勤手当等）がつきます。 ・図書室、演習室（スキルラボ室）、男女別更衣室、インターネット環境があります。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・長崎県県央医療圏の中心的な急性期病院である国立病院機構長崎医療センターを基幹施設として、長崎県県央医療圏・離島やへき地といった近隣医療圏にある連携施設、特別連携施設（17施設）ならびに県外の連携施設とで内科専門研修を行います。 ・総合内科専門医：23名、内科指導医数：29名が在籍しています。 ・全職員が定期的にeラーニング（Web受講）を利用し、医療安全・医療倫理・個人情報保護などの受講を必須としています。 ・毎週木曜日の夕方からプログラム責任者を含めミーティングを行っており、研修の振り返りの時間を設けています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療、緩和医療、集中治療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院、地域基幹病院、県北のへき地医療離島医療を支えている病院、離島の病院や診療所などで構成しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけることができます。地域基幹病院では、高次機能病院とは異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、症例報告などの学術活動の素養を積み重ねることが可能です。
指導責任者	和泉 泰衛（内科部長） 【所属学会】日本内科学会、日本プライマリケア連合学会、日本リウマチ学会 【講習会】平成21年度臨床研修指導医養成講習会、平成29年プログラム責任者養成講習会
指導医数 （常勤医）	総合内科専門医：23名、内科指導医数：29名
外来・入院患者数	（病院全体） 外来患者 170,237名、入院患者 159,060名（2023年度実数） （内科） 外来患者 70,953名、入院患者 81,329名（2023年度実数）
経験できる疾患群	3年間の研修で、専攻医は研修手帳に定める70疾患群はほぼ全て経験できることが見込まれます。
経験できる技術・技能	内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されている疾患を経験していきます。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。

経験できる地域医療・診療連携	連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療、緩和医療、集中治療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に県北のへき地医療を支えている病院、離島医療を支えている病院、在宅医療を提供している診療所・クリニックなどで構成しています。
学会認定施設 (内科系)	日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本透析医学会認定施設認定 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設認定 日本神経学会専門医制度准教育施設認定 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本リウマチ学会教育施設認定 日本てんかん学会研修施設認定 日本臨床腫瘍学会認定研修施設認定 日本輸血細胞治療学会指定施設認定 日本高血圧学会日本高血圧学会施設認定 日本消化器病学会専門医修練施設認定 日本糖尿病学会認定教育施設 日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療後期研修プログラム (ver.2.0) 新家庭医療後期研修プログラム など

3) 専門研修特別連携施設

六甲アイランド甲南病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・甲南医療センター常勤医として労務環境が保障されます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務局総務部）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医のための更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 5 名在籍しています。 ・内科専攻医委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、甲南医療センターに設置されているプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を職員必須講習として定期的に行います（2021 年度実績：医療倫理 2 回、医療安全 12 回、感染対策委員会 12 回）専攻医にも受講を義務付けます。 ・甲南医療センターで開催する CPC に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのため時間的余裕を与えます。 地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に行っており、専攻医に特定以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、膠原病、感染症で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2018 年度実績 14 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表をしています。関連学会での発表も行っています。
指導責任者	稲垣 健二郎 【内科専攻医へのメッセージ】 当院では地域包括医療につき多くの症例を経験することで、治療のみならず、保健サービス、在宅ケア、栄養管理、精神管理、リハビリテーション、福祉・介護サービス等を包括するチームワークで連携対応し、福祉社会に貢献できる医師を育成する研修を行っています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 5 名 日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本透析医学会専門医 2 名 日本消化器病学会専門医 1 名 日本循環器学会専門医 1 名 日本腎臓学会専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名 ほか

外来・入院患者数	外来患者 14,883 名 (1ヶ月平均) 入院患者数 2,405 名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
研修できる地域医療・診療連携	急性期疾患から慢性疾患にいたるまで、甲南医療センターとの密な連携により、内科医にとって必要である地域に根ざした医療、病診、病病連携が経験できます。
学 会 認 定 施 設 (内科系)	日本内科学会認定制度教育関連病院 日本糖尿病学会教育関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会准教育施設 日本腎臓学会研修施設

甲南医療センター内科専門研修プログラム管理委員会

プログラム統括責任者	脳神経内科/診療部長	小別所 博
委 員	糖尿病・内分泌・総合内科/院長代行	山田 浩幸
委 員	循環器内科/教育研修センター長	清水 宏紀
委 員	腎臓内科/副院長	藤森 明
委 員	循環器内科/診療部長	大久保 英明
委 員	腫瘍・血液内科/診療部長	下山 学
委 員	消化器内科/統轄部長	西岡 千晴
委 員	糖尿病・内分泌・総合内科/部長	肥後 里実
委 員	呼吸器内科/部長	中田 恭介
委 員	事務部長	岡寄 幸雄
委 員	人事部長	速水 光
委 員	看護部長	山原 敦子
委 員	教育研修センター/副課長	高橋 暢
委 員	教育研修センター	元林 香、興津 雄大
オブザーバー	内科専攻医	1～2 名

連携施設 担当委員

神戸大学医学部附属病院	薬師神 公和
加古川中央市民病院	西澤 昭彦
神鋼記念病院	岩橋 正典
神戸赤十字病院	川島 邦博
北播磨総合医療センター	安友 佳朗
兵庫県立丹波医療センター	河崎 悟
兵庫県立淡路医療センター	今西 純一
三田市民病院	中村 晃
社会医療法人愛仁会明石医療センター	米倉 由利子
兵庫県立はりま姫路総合医療センター	大内 佐智子
神戸市立医療センター中央市民病院	古川 裕
神戸市立西神戸医療センター	多田 公英
社会医療法人愛仁会千船病院	二宮 幸三
大阪市立総合医療センター	山根 孝久
淀川キリスト教病院	紙森 隆雄
社会医療法人愛仁会高槻病院	船田 泰弘
大阪府済生会中津病院	森澤 利之
日本生命病院	橋本 久仁彦
兵庫県立加古川医療センター	奥田 志保
長崎医療センター	和泉 泰衛
特別連携施設・六甲アイランド甲南病院	稲垣 健二郎

甲南医療センター内科専門研修プログラム 専攻医研修マニュアル

1.研修後の医師像と終了後に想定される勤務形態や勤務先

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。地域の医院に勤務（開業）し、実地医家として地域医療に貢献します。
- 2) 内科系救急医療の専門医：病院の救急医療を担当する診療科に所属し、内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院の総合内科に所属し、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合的医療を実践します。
- 4) 総合内科的視点を持った subspecialist：病院で内科系の Subspecialty、例えば消化器内科や循環器内科に所属し、総合内科（Generalist）の視点から、内科系 subspecialist として診療を実践します。

2.専門研修の期間

内科専門医は 2 年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（後期研修）3 年間の研修で育成されます。

3.研修施設群の各施設名

（基幹病院）

甲南医療センター

（連携施設）

神戸大学医学部付属病院、加古川中央市民病院、神鋼記念病院、神戸赤十字病院

北播磨総合医療センター、兵庫県立丹波医療センター、兵庫県立淡路医療センター

三田市民病院、明石医療センター、兵庫県立はりま姫路総合医療センター

神戸市立医療センター中央市民病院、神戸市立西神戸医療センター、千船病院

大阪市立総合医療センター、淀川キリスト教病院、高槻病院、大阪府済生会中津病院

日本生命病院、兵庫県立加古川医療センター、長崎医療センター

（特別連携施設）

六甲アイランド甲南病院

4.プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名

○甲南医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と委員名

（P65「甲南医療センター内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

○甲南医療センター内科専門研修プログラム指導医名

山田 浩幸、肥後 里実、西本 祐希、浜口 哲矢、谷 聡、下山 学、茶屋原 菜穂子
清水 宏紀、大久保 英明、下川 泰史、宇津 賢三、長澤 圭典、西岡 千晴、山中 広大
木下 雅登、金子 三紀、小別所 博、藤森 明、岡田 志緒子、中田 恭介、関谷 怜奈
吉崎 飛鳥、伊藤 絢

5.各施設での研修内容と期間

専攻医 1～2 年次に本人の希望や将来像、研修達成度及びメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を基に、研修施設を調整決定します。3 年間のうち 1 年間以上は、連携施設、特別連携施設での研修を行います。

6.本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である甲南医療センター診療科別診療実績を以下の表に示します。甲南医療センターは地域基幹病院であり、コモンディジーズを中心に診療しています。

2022 年実績	入院患者実数(人/年)
総合内科	463
消化器内科	1,426
循環器内科	1,033
糖尿病・内分泌内科	148
腎臓内科	443
呼吸器内科	320
脳神経内科	240
血液内科	539
感染症	299
救急科	403

*剖検体数は 2023 年度 4 体です。

7.年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として、入院から退院（初診・入院から退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態から社会的背景や療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

入院患者担当の目安（基幹施設：甲南医療センターでの一例）

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受け持ちます。

専攻医 1 人あたりの受け持ち患者数は、受け持ち患者の重症度など加味して、担当指導医、Subspecialty 上級医の判断で 5～10 名程度受け持ちます。感染症、総合内科分野は、適宜、領域横断的に受け持ちます。

甲南医療センターローテート（例）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年目	専門		選択		選択		専門				選択	
2 年目	連携施設 A						連携施設 B					
	連携施設 A											
3 年目	専門											

（選択科）

循環器内科/消化器内科/糖尿病・内分泌・総合内科/呼吸器内科/腫瘍・血液内科/脳神経内科/腎臓内科/緩和ケア内科

（連携施設）

神戸大学医学部附属病院、加古川中央市民病院、神鋼記念病院、神戸赤十字病院、北播磨総合医療センター

兵庫県立丹波医療センター、兵庫県立淡路医療センター、三田市民病院、明石医療センター

兵庫県立はりま姫路総合医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、神戸市立西神戸医療センター

千船病院、大阪市立総合医療センター、淀川キリスト教病院、高槻病院、大阪府済生会中津病院、日本生命病院

兵庫県立加古川医療センター、長崎医療センター

（特別連携施設）

六甲アイランド甲南病院

8.自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

1) 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

毎年3月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。web アンケートは別途定めます。

2) 指導医による評価と 360 度評価

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が J-OSLER に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。毎年、指導医とメディカルスタッフによる複数回の 360 度評価を行い、態度の評価が行われます。

9.プログラム修了の基準

専門研修 3 年目（内科・サブスペシャリティ並行研修は 4 年目）の 3 月に J-OSLER を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29 例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

10. 専門医申請に向けての手順

日本内科学会 J-OSLER を用います。具体的な入力手順については内科学会 HP から” 専攻研修のための手引き” をダウンロードし、参照とする。

- 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- 指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価、専攻医による逆評価を入力して記録します。
- 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し指導を受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまで J-OSLER 上で行います。
- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

11. プログラムにおける待遇

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、労働基準法を順守し、甲南医療センターの専攻医就業規則及び給与規則に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けます。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

12. プログラムの特色

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 3 つのコース、①総合内科コース、②各科重点コース、③内科・サブスペシャリティ並行研修を準備していることが最大の特徴です。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。また、外来トレーニングとしてふさわしい症例（主に初診）を経験するために外来症例割当システムを構築し、専攻医は外来担当医の指導の下、当該症例の外来主治医となり、一定期間外来診療を担当し、研修を進めることができます。

13. 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

内科学における 13 の Subspecialty 領域を順次研修します。基本領域の到達基準を満たすことができる場合には、専攻医の希望や研修の環境に応じて、各 Subspecialty 領域に重点を置いた専門研修を行うことがあります（各科重点コース参照）。本プログラム終了後はそれぞれの医師が研修を通じて定めた進路に進むために適切なアドバイスやサポートを行います。

14. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。web アンケートは別途定めます。

15.研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

甲南医療センター内科専門研修プログラム

指導医マニュアル

1. 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- 1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が甲南医療センター内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- 担当指導医は、専攻医が web にて日本内科学会 J-OSLER にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や教育研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。
専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。
担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。

2. 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法、ならびにフィードバックの方法と時期

- 年次到達目標は、内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」に示すとおりです。
- 担当指導医は、研修管理委員会と協働して、4 か月ごとに専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡、検討します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、研修管理委員会と協働して、4 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、研修管理委員会と協働して、4 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 担当指導医は、研修管理委員会と協働して、4 か月ごとに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。

3. 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準

- 担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修管理委員会での専攻医による評価を行います。

4. 日本内科学会 J-OSLER の利用方法

- 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
- 専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- 専門研修施設群とは別の日本内科学会 J-OSLER によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床研修センター（仮称）はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- 担当指導医は、日本内科学会 J-OSLER を用いて研修内容の評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5. 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システムを用いた指導医の指導状況把握

専攻医による日本内科学会 J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、甲南医療センター内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6. 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時で日本内科学会 J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に甲南医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7. プログラムならびに各施設における指導医の待遇

甲南医療センター給与規定によります。

8. FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修 (FD) の実施記録として、日本内科学 J-OSLER を用います。

9. 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を熟読し、形成的に指導します。

10. 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

甲南医療センター 疾患群 症例 病歴要約 到達目標

別表1 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医2年修了時 経験目標	病歴要約 提出数
分野	総合内科Ⅰ (一般)	1		1		2
	総合内科Ⅱ (高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ (腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		2
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4以上		2
	外科紹介症例					2
	剖検症例					1
	合計※5	70 疾患群	56 疾患群 (任意選択含む)	45 疾患群 (任意選択含む)	20 疾患群	29 症例 (外来は 最大7)※3
	症例数※5	200 以上 (外来は最大20)	160 以上 (外来は最大16)	120 以上	60 以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」「肝臓」「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。例)「内分泌」2例+「代謝」1例、「内分泌」1例+「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各研修プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。

(最大80症例を上限とすること。病歴要約への適用については最大1例を上限とすること)。

甲南医療センター内科専門研修プログラム

週間スケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土・日曜日
午前	朝カンファレンス (各診療科)					担当患者の病態 に応じた診療/ オンコール/ 日当直/講習会・ 学会参加など
	入院患者診療(担当患者、新入院患者)					
	外来(総合外来/診療科別外来/救急外来)					
	内科 Subspecialty 領域検査					
午後	入院患者診療(担当患者、新入院患者、救急入院患者)					
	内科 Subspecialty 領域検査					
	診療科別カンファレンス					
	内科合同 カンファレンス			抄読会	CPC(月1回)	
	勉強会/講習会 ※ J-OSLER time (週1回)					
	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直など					

※J-OSLER time の各科の実施曜日と時間帯は下記の通り。

診療科別 J-OSLER time 表

診療科	曜日	時間帯
腫瘍・血液内科	金曜日	16 時～17 時 15 分
糖尿病・内分泌・総合内科	金曜日	16 時～17 時 15 分
呼吸器内科	(専攻医 1) 水曜日 (専攻医 2) 金曜日	16 時～17 時 15 分
脳神経内科	木曜日	14 時 45 分～16 時
緩和ケア内科	水曜日	16 時～17 時 15 分
循環器内科	(専攻医 1) 月曜日	16 時～17 時
	(専攻医 2) 木曜日	16 時～17 時
	(専攻医 3) 金曜日	13 時～14 時
	(専攻医 4) 金曜日	14 時～15 時
	(専攻医 5) 金曜日	15 時～16 時
腎臓内科	(専攻医 1) 水曜日 (専攻医 2) 木曜日	16 時～17 時 15 分
消化器内科	※専攻医在籍なし (2024 年 10 月時点)	

